



# 平成 30 年度キャッチコピー募集中！ 赤い羽根共同募金運動のご紹介

社会福祉法人 秋田県共同募金会

秋田県共同募金会では、今年も赤い羽根共同募金運動を盛り上げるため、秋田県独自のキャッチコピーを募集しています。

キャッチコピーを考えるときの参考に、そして運動のことをより詳しく知ってもらうために、赤い羽根共同募金運動についてご紹介します！

## 1. 「共同募金運動」とは？

毎年1回、10月1日から行われている募金運動で、日本以外でも43の国や地域で実施されています。日本では赤い羽根がシンボルとして使われ、「赤い羽根共同募金運動」として長年親しまれています。

募金運動は都道府県ごとに行われていて、それぞれの地域で集まったお金は、その地域の福祉活動のために役立てられる「じぶんの町を良くするしくみ。」としてのはたらきを持っています。

## 2. いつ始まった運動なの？

戦後まもない1947年（昭和22年）のことです。戦争によって家族をなくしてしまった子どもたちや、被害にあった福祉施設などを支援するための「国民たすけあい運動」として共同募金運動は始まりました。今では地域福祉を支えるための運動として、70年以上続けられています。

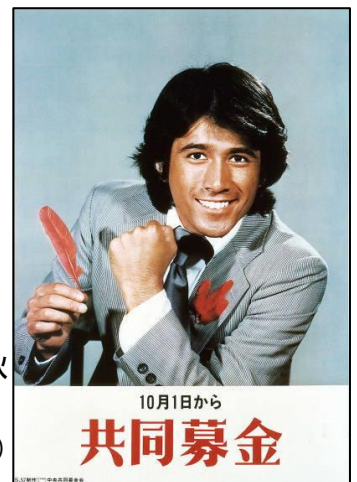
## 3. どうして「赤い羽根」なの？

「赤い羽根」は、勇気や名誉、善行のシンボルとして、インディアンの羽飾りや騎士の帽子などに使われていました。

そこから、募金に協力してくれた人へ「良い行いのしるし」として赤い羽根を配るようになりました。もともとはアメリカの共同募金運動で使われており、日本では第2回の運動から赤い羽根を取り入れたそうです。今では「やさしさ」や「思いやり」のシンボルとして定着し、その時々著名人の胸元で運動をPRしています。

また、10月1日に運動が始まることから、「赤い羽根」は俳句の秋の季語にもなっています。

（写真はタレント草刈正雄さんが登場した昭和52年の運動ポスター）



## 4. 秋田県では募金は何に使われているの？

赤い羽根共同募金運動による募金は、地域の福祉活動を支えるための資金として広く役立てられています。ここ秋田県では、お寄せいただいた募金は、全県域で取り組む福祉事業や福祉施設の活動用車両の購入などに。それぞれの市町村では、一人暮らしのお年寄りが交流できる場づくりや、除雪ボランティアの活動支援など、高齢化の進む雪国秋田ならではの福祉活動にも使われています。

災害時の備えにも赤い羽根共同募金は活用されています。火災や大雨などの災害で住宅が被害にあった方へのお見舞いのほか、昨年7月に発生した秋田県大雨災害では、災害ボランティアセンターの設置にも募金が活用されました。